

開講科目名 Course	租税法研究演習 2 年（宮崎先生） / Seminar on Tax Law
時間割コード Course Code	18002
開講所属 Course Offered by	法学研究科修士課程 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2022年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	土 / Sat 3
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	2,3,4
主担当教員 Main Instructor	宮崎 清幸
科目区分 Course Group	研究演習科目
教室 Classroom	4 6 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	宮崎 清幸（法学部）
授業の目標	<p>本演習は、修論作成の基本的な事項の確認をするとともに、研究テーマの論点を整理し、修論を完成する。</p> <p>知識・理解の領域 専門分野の幅広い知識を習得できる。</p> <p>技能の領域 個別事例に対する検討方法を身に着けることができる。</p> <p>態度志向の領域 コミュニケーション能力をつけ、対立する見解にも真真摯な対応を身に着けることができる。</p>
授業の概要	自らで選定した、修論テーマについて、は発表・討議を通じて租税法の研究を深めるとともに、修論作成の指導をする。
評価方法	演習への取り組みおよび貢献度により評価する。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	研究への取り組みが不十分な場合は、欠席等として取り扱う。

授業計画	第1回 修論テーマの確定と論点の検討 第2回 修論論点の検討 第3回 修論論点の検討 第4回 修論論点の検討 第5回 修論論点の検討 第6回 修論論点の検討 第7回 修論論点の検討 第8回 修論初稿の検討 第9回 修論初稿の検討 第10回 中間発表に向けた資料整理 第11回 修論中間（一次）発表会へ参加 第12回 修論原案の検討 第13回 修論原案の検討 第14回 修論原案の検討 第15回 修論原案の検討 第16回 修論原案の検討 第17回 修論原案の検討 第18回 修論原案の検討 第19回 修論初稿の検討 第20回 修論初稿の検討 第21回 修論中間（二次）発表会へ参加 第22回 修論原案の検討 第23回 修論原案の検討 第24回 修論原案の検討 第25回 修論原案の検討 第26回 修論原案の検討 第27回 修論原案の検討 第28回 1年・2年の合同ゼミ 第29回 修論補正 第30回 口頭試問の準備
テキスト	特に指定しない
参考書	金子宏『租税法〔24版〕』（弘文堂・2021年） 谷口勢津夫『税法基本講義〔7版〕』（弘文堂・2021年） 佐藤英明『スタンダード所得税法〔3版〕』（弘文堂・2022年） 中里実ほか『租税法判例百選〔7版〕』（有斐閣・2021年） 金子宏ほか『ケースブック租税法〔5版〕』（弘文堂・2017年）
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当する
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	税務の実務経験のある教員が、個別事例で起こりうる問題点などを踏まえた講義をおこなう。
質問への対応方法	随時対応する
フィードバックの方法	随時対応する
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	各自の研究テーマに従って、ゼミ開催前に資料を提出する。ゼミでの議論を踏まえて、更に、先行研究を確認し、補正した資料を提出する。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	4.質の高い教育をみんなに
SDGs 17の目標（11～17）	17.パートナーシップで目標を達成しよう
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	